

- ・対象地域：雄武町
- ・地域人口：5,507人 (H17 国勢調査)
- ・漁港：元稲府漁港(4種)、雄武漁港(2種)  
沢木漁港(1種)、幌内漁港(1種)
- ・漁業就業者数：368人 (H17 国勢調査)

# 雄武地域マリンビジョン

～海・山・人が育んだ「雄武の宝」によるまちおこし～  
(資源・取組・文化)

- 拠点漁港のタイプ
- 衛生管理流通拠点漁港
  - 増養殖支援拠点漁港



現状と課題	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メジカ、カニ等の高級魚を有するが、一般的に魚価が低迷</li> <li>○資源管理・増養殖に一成果有るが、天然水産資源は未だ不安定</li> <li>○漁業・農業中心で産業間連携不足</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漁港の機能分担・整備促進、水産物の付加価値向上</li> <li>○次世代での安定生産を可能とする水産資源の維持・増大</li> <li>○1次産業と観光・商工の連携による地域一体での活性化</li> </ul>

## 地域の目指す姿

■ビジョンの特徴

水産物の品質・衛生管理の強化と、増養殖等のつくり育てる漁業についての推進を両立し、信頼有る雄武産水産物の地位を確立する。また、雄武産品の良さを地元がより理解し、地域産業が連携してPRすることで、地域振興に繋げる。

- ①美味・安心安全・安定供給を両立する水産生産基盤の強化
  - ・漁港と HACCP 加工場等とが連携した地域一体での衛生管理機能の強化
  - ・漁港内における増養殖支援機能の強化
- ②循環型社会にも対応した持続有る水産資源の確保
  - ・漁場再編によるホタテ漁業の安定化
  - ・水産系廃棄物(貝殻)の再利用による漁場の環境保全
  - ・資源量に基づいた適切な漁獲規制の継続・漁業者意識の向上
- ③「雄武の宝(資源・取組・文化)」を明確にしたまちづくり・ひとづくり
  - ・「雄武の宝」について学ぶ場の創出・宝である由縁を明確にしたPR
  - ・地域産業の連携による新商品の開発・地域ブランドの推進 (農水と商工の連携による「雄武の食卓」等)

- ## 地域マリンビジョン協議会
- 《メンバー》
- ・漁業、行政、(商工、観光、農林業)
- 《ワーキンググループ(作業部会によるWS)》
- ・漁業部会 (ホタテ、毛ガニ、サケ等)
  - ・観光・商工部会 (商工会、観光協会、食卓の会、NPO 等)
  - ・まちづくり部会 (民生委員、住職等)
  - ・農業関係者 (WS での要請に応え参加)
  - ・ファシリテーター (学識経験者)

- ## 地域資源 (特徴)
- 毛ガニ、メジカ・雄宝(サケ)に代表される水産物ブランド
  - 青いオホーツク海と緑広がる牧草地のコントラスト
  - 農水商工連携の地域ブランド「雄武の食卓」
  - インフォメーション、直売有する道の駅
  - めだか塾、山村留学等による一次産業体験
  - 日の出岬、キャンプ場に隣接する温泉
- 【主な地域資源等】
- ・日の出岬
  - ・毛ガニまつり、産業まつり
  - ・流水 等

- ## 漁港の将来像
- ①衛生管理流通拠点(元稲府、雄武漁港)
    - ・岸壁への屋根設置、清浄海水導入  
港内静穏度向上 等
  - ②増養殖支援拠点(元稲府漁港)
    - ・海水交換機能を付加した静穏水域の確保
    - ・養殖支援岸壁 等

- ## ビジョン実現のための主な取り組み
- 漁港から HACCP 加工場まで地域一体での衛生管理強化 (推進体制の確立、マニュアル化、市場・漁港の整備)
  - 港内増養殖の実証試験・データ収集
  - ホタテ漁場再編、資源管理徹底、増養殖技術開発等の継続
  - 農水と商工が連携した地域ブランドの推進(「雄武の食卓」等)
  - 「雄武の宝」をテーマとしたパンフレットの作成・発信

